



長野県林業総合センター - 塩尻市片丘 5739
Nagano-prefectural Forestry Research Center

TEL 0263-52-0600

FAX 0263-51-1311

キシヤヤスデの発生がはじまりました

キ - ワ - ド : キシヤヤスデ、土壤動物、フォッサマグナ

20数年前に小海線で列車を止めた「キシヤヤスデ」の大発生が8年ぶりにはじまりました。このヤスデは、線路の上だけでなく、畑や家の中にも入り込んでくるため「気持ち悪い」と嫌われますが、そんなに悪い虫ではなく、森にとっては大切な生き物です。

1. キシヤヤスデとは

「キシヤヤスデ」は、写真のような肌色～朱色の長さ 35mm 程度の虫で、ムカデのように人をかむことはなく、毒も持っていません。また、キシヤヤスデは、一生の大部分を森の土の中ですごし、その間体重の何十倍もの腐植層を食べて土に変えるとともに、土の中を動き回ることによって、土の空気や、水のとおりをよくしてくれています。また、その糞は栄養分に富み、樹木の成長に役立っています。



写真 キシヤヤスデの交尾 (新島原図)

2. キシヤヤスデの大発生

「キシヤヤスデ」は8年に1回大発生し、交尾して死んでゆきます。

長野県では1999年に信濃川上付近で、2000年に中部山岳地帯で、2001年に乗鞍

岳周辺で大発生が起こることが予測されています(表)。また、すでに10月中旬に小海線の海尻～松原湖間で発生が確認されたとの情報もあります。

地域	長野県における過去のキシヤヤスデの大発生年			
	大発生年*			
信濃川上付近	1975	1983	1991	1999
中部山岳地帯	1976	1984	1992	(2000)
乗鞍岳周辺	1977	1985	1993	(2001)

* ()内は予測年を示す

担当者 育林部 岡田充弘